基本目標 4

生活環境

4－1　自然環境保全・活用

5年後に目指す姿

本町の自然を後世に受け継いでいくため、また、世界共通の課題である地球温暖化への対応について、町として必要な取組を考え、実施します。

対応する指標

指標名	単位	令和5年度	令和10年度	数値設定根拠
町事業における CO_2 排出量	kg-CO2	2,049	1,445	地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
住民向け再エネ活用助成事業活用件数	件	0	5	財源を確保しつつ町民の行う再エネ導入を支援

現状と課題

- 地球温暖化への町としての対応策策定が急務
- 環境保全意識の向上
- 環境保全に関わる啓発活動不足
- 自然災害リスクの低減
- 脱炭素社会に向けた住民協力

晩生内地区の三日月湖と田園風景

取り組み　　指　標

取り組み内容		指標名（単位）	
		令和５年度（実績値）	令和 10 年度（目標値）
1	地球温暖化への対応	地球温暖化に係る計画策定 未策定　→　策定	
地球温暖化対策実行計画（区域・施策編）等、町の方向性を示した計画を策定し、町として地球温暖化対策を推進します。 再生可能エネルギーの導入について情報収集し、実現可能な施策を検討します。			
2	環境保全意識の向上	町内における省エネ・再エネ導入に対する助成 未実施　→　実施	
町全体に対する環境保全の意識啓発を行うとともに、町民の省エネ、再エネ活用機運が高まるよう、助成制度など実現可能な施策を検討します。			
3	酷暑対策の推進	涼みどころとして開放した公共施設の利用人数（人／年） 1　→　30	
近年の酷暑に対して、分野横断的に対策を講じていきます。（公共施設を涼みどころとして開放、必要な施設へのエアコン設置、避難所対策）			

4－2　環境衛生

5年後に目指す姿

循環型社会実現に向け、廃棄物の発生を極力抑えるとともに、円滑なし尿の収集、処理を行います。

また、墓地埋葬法に基づき、宗教感情及び風土を尊重した町営墓地の適正な利用を促進します。

対応する指標

指標名	単位	令和5年度	令和10年度	数値設定根拠
一般廃棄物排出量	t	331	325	施策の展開により廃棄物の量を減少
町営墓地利用区画数	区画	1,060	960	墓地管理台帳の返還地年度実績を推計

現状と課題

- ごみ減量及び適正排出意識の醸成が必要
- 一般廃棄物最終処分場の老朽化
- 効率的な収集作業体制構築
- 不法投棄の発生
- 下水道処理区域外の合併浄化槽設置の推進
- ごみ収集作業員の後継者不足
- 資源ごみの分別強化
- 廃棄物の再利用促進
- 墓地利用区画の減にともなう管理コストの増

取り組み　　指　標

取り組み内容		指標名（単位）	
		令和５年度（実績値）	令和 10 年度（目標値）
1	ごみの減量化とゴミ出しマナーの改善	一般廃棄物排出量（ｔ）	
町民への広報及び啓発活動の継続と減量化への推進を図ります。		331 → 325	
2	ごみ処理体制の検討	ごみステーション設置数（箇所）	
ごみステーションの配置の見直しや委託事業者との連携により、安定的で安全な収集体制の維持に努めます。		市街地区 71 → 71 農村地区 43 → 38	
3	不法投棄対策の推進	不法投棄件数（件／年）	
警察と連携し、啓発看板の設置や監視体制の強化を図り、不法投棄の防止に努めます。		2 → 0	
4	し尿・一般廃棄物広域処理体制の維持	広域連携の維持（ー）	
広域連携のもと、処理施設の適正な管理、運営に努めます。		継続 → 継続	
5	町営墓地の適切な維持・管理	町営墓地利用区画（区画）	
今後とも町営墓地を利用いただけるよう、利用者への啓発活動も行いながら適切に維持・管理します。		鶴沼 586 → 550 札的 474 → 410	

4－3　消防・防災

5年後に目指す姿

平常時から災害への備えの重要性を意識し、町民全体の防災意識を高め地域防災計画等の実効性を検証するため、防災訓練の積極的な実施に取り組み関係機関との協同連携を図り、自助、共助、公助の考えを醸成しつつ災害に強い町づくりを目指します。

対応する指標

指標名	単位	令和5年度	令和10年度	数値設定根拠
受援計画の策定	―	未策定	策定	浦臼町地域防災計画
災害備蓄数量の確保	人分	100	200	浦臼町地域防災計画

現状と課題

- ◆ 役場（行政）の災害対応力の強化に向け、計画やマニュアルの改訂や策定
- ◆ 避難所の機能強化に向けた計画的な備蓄品等の整備
- ◆ 自主防災組織の活性化（自助・共助の強化）
- ◆ 災害時等における防災行政無線以外の情報伝達手段の確保に向けた検討
- ◆ 気候変動に伴う災害リスクの変化
- ◆ 住民の防災意識向上と啓発活動の充実

浦臼消防団本部
（令和２年度建設）

取り組み　　指　標

取り組み内容		指標名（単位）	
		令和5年度（実績値）	令和10年度（目標値）
1	役場（行政）の災害対応力強化	受援計画の策定	
受援計画をはじめとする防災関連計画の見直しや関連マニュアル等の整備を通じて災害対応力の強化に努めます。		未策定 → 策定	
2	避難所の機能強化	災害備蓄数量の確保（人分）	
避難所で生活するために必要な食料・水・生活必需品等を確保し、令和10年度までに備蓄品目標値を達成します。		100 → 200	
3	自主防災組織の活性化	（防災訓練活動を行う）自主防災組織の確立（町内会）	
行政区単位での自主防災組織結成に向け、町内会長会議等において町民への説明会を継続的に行います。		0 → 3	
4	情報伝達手段の多重化	災害情報連絡手段の強化（種類）	
各戸に貸与している防災行政無線個別受信機以外の情報伝達手段について検討し、複数の通信手段を確保します。		2 → 4	

災害備蓄品

4－4　防犯・交通安全

5年後に目指す姿

交通事故や飲酒運転による事故を減らすため、関係機関や団体と連携し交通安全教室や啓発活動の推進に努めます。また、高齢者や子どもを狙った犯罪、変化をする詐欺事件を未然に防ぐため、関係機関や団体と連携し啓発運動の推進に努めます。

同時に、犯罪の抑止力となるような環境づくりに努めるとともに、警察署、防犯協会等と連携し、各種防犯（再犯防止）活動を支援及び実践します。

対応する指標

指標名	単位	令和5年度	令和10年度	数値設定根拠
交通安全啓発運動	人／年	600	750	周知方法の増
青色防犯パトロール	回／年	15	15	パトロール回数の維持

現状と課題

- ◆ 車社会となり高齢者の交通事故が増えている
- ◆ 町内において犯罪被害は多くはないが、今後も被害を未然に防止するための啓発を継続する。
- ◆ 還付金詐欺やSNS型投資詐欺、ロマンス詐欺等の多様に存在する特殊詐欺に対する防犯啓発を継続する。
- ◆ 地域防犯意識の向上

取り組み　　指　標

取り組み内容		指標名（単位）	
		令和５年度（実績値）	令和 10 年度（目標値）
1	交通安全意識の高揚	啓発運動参加者（人／年） 600 → 750	
関係機関や団体と連携し、学校や高齢者団体を対象とした交通安全教室の開催や啓発活動の推進に努め、交通安全意識の高揚に努めます。			
2	交通安全運動の推進	啓発運動参加者（人／年） 600 → 750	
関係機関や町内会との協力・連携により、街頭啓発やパトライト運動を実施し交通安全の推進に努めます。 交通安全推進委員会や交通指導員、交通安全協会の活動促進に努めます。			
3	防犯体制・活動の強化及び推進	防犯協会定員充足率（%） 100.0 → 100.0	
防犯協会や関係機関との連携を図り、防犯活動及び啓発活動の推進に努めます。 防犯対策の情報提供や見守り活動などを行い、犯罪防止に努めます。			

交通安全を祈願して作成した巨大雪だるま

町民・関係機関による「旗の波運動」

※本施策は、「再犯防止等の推進に関する法律」に基づく地方再犯防止計画として位置づけます。